

# 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	三原市地域水産業再生委員会
代表者名	濱松 照行

再生委員会の 構 成 員	三原市漁業協同組合, 三原市
オブザーバー	広島県

※ 再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	対象となる地域の範囲 広島県三原市地域 対象となる漁業の種類 刺し網漁業9名, タコ壺漁業13名, 一本釣漁業32名, 小型機船底曳網漁業2名 計56名
-----------------------	--

※ 策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

### (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地域は、広島県の東南部に位置しており、古くから海上・陸上交通の要所として発展し、現在でも地域拠点空港である広島空港、JR山陽本線(糸崎駅, 三原駅, 本郷駅)・呉線(三原駅, 須波駅, 安芸幸崎駅)・山陽新幹線(三原駅), 山陽自動車道(本郷IC, 三原久井IC), 国道2号線, 瀬戸内海島しょ部や四国などの航路網である重要港湾尾道糸崎港の三原内港及び地方港湾須波港を有する陸・海・空の交通の拠点である。

当地域の海域は、瀬戸内海の隠灘に面し、二級河川沼田川等からの栄養分の流入と瀬戸内海特有の地形により、マダコやマダイ等が多く獲れる豊かな漁場を形成していたが、近年の海砂採取や水質汚濁により、漁獲量が減少している。

漁業活動は、古くから能地・須波・旭町の三つの漁浦(漁村)があり、その漁業者が行う漁の中でも能地の「浮き鯛」の漁獲及び旭町の「タコ壺漁」は伝統的な漁であったが、能地の「浮き鯛」は約40年前を最後に現在は見受けられなくなった。一方、旭町の「タコ壺漁」は、一子相伝の漁場をブイやGPSを使用せず「山立て」で操業するという形態で、現在の三原市漁協の漁業者に引き継がれている。

魚種は、マダコ、カレイ類、サワラ類、マダイ、スズキ類、タチウオ、アナゴ類等で、近年の漁獲量は、平成20年をピークに、減少傾向にある。また、魚価についても全国同様に低迷していることから、漁業者の所得減少、後継者不足といった悪循環が続いている。そのような中、三原市漁協は最も漁獲量の多いマダコの集荷・販売をすることで、仲買業者の平均買取価格より高く買取り、漁業者の所得向上を進め、また、「三原やっさタコ」の商標登録を取得し、ブランドとして販売を行っており、売上は年々増加している。しかし、タコ以外の魚種の出

荷・販売はほとんど行われていないため、漁業者の販路は限られており、所得の減少を余儀なくされている。

このような水産業を取り巻く厳しい状況から、三原市の漁業者は減少し、平成 21 年の三原市漁協合併(三原漁協, 幸崎漁協)当時, 88 人であった漁業者は, 現在 56 人まで減少し, そのうち 65 歳以上の割合は, 全体の 8 割以上であり, 35 歳未満は 1 人もおらず, 漁業者の高齢化と後継者不足が深刻な課題となっている。

こうした中, 三原市では, 水産資源増大のために漁場環境整備を推進するとともに, 販売製品の付加価値向上のために水産物加工施設整備等に取り組んできたが, 依然として三原市の水産業を取り巻く状況は厳しく, 更なる取り組みが必要である。

## (2) その他の関連する現状等

### ○ 水産資源拡大の取り組み

- ① 毎年, 稚魚放流(ヒラメ, ガザミ, キジハタ, カサゴ等)を行っている。
- ② 中間育成の取り組みとして, 漁港内のマダイの飼付及び放流, 三原市内と尾道市内の漁協で構成する尾三地区水産振興協議会が行うヒラメとヨシエビの中間育成に三原市も補助し, 種苗配布を受けた三原市漁協はヒラメの放流を行っている。
- ③ 毎年, タコ産卵礁を 3,000 個程度沈設している。

### ○ 漁業経営の安定化の取り組み

三原市漁協の漁業者に対し, 加入する漁船損害保険料, 漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への一部補助を行っている。

### ○ 水産教室の取り組み

- ① 平成 2 年から毎年, 市立小学校 2 校を対象に水産教室を実施しており, 延べで 2,564 名の児童が参加している。
- ② 三原市が主催する「三原ふるさと子ども博士講座」で, 水産教室を平成 25 年度より, 市内の小学 3 年生から 6 年生 40 名を対象に実施しており, 延べで 160 名が参加している。

### ○ 食育の取り組み

市立小学校の学校給食で, 平成 26 年度より「三原やっさタコ」の使用を開始しており, 現在では月に 1 回程度使用されている。

### ○ 各種イベントへの参加

三原市漁協は, 市内外のイベントに「三原やっさタコ」を使用した「タコ飯」や「タコ天」等の販売を行っている。また, 平成 28 年の S e a 級グルメに参加し, 人気投票で参加 19 団体中, 4 位に入選した。

### ○ 地域の水産業を取巻く課題

- ① 旭町漁村は漁港が無く, 荷揚げ施設も無いため, 船溜り場に係留した漁船から漁獲物の荷揚げを人力で行っており, 高齢化した漁業者には危険である。
- ② 三原市には公設市場が無く, 一部の漁業者は, 道の駅の鮮魚コーナー(三原市漁協も出資)へ販売しているが, 漁業者の多くは買い叩かれても, それまで付き合いのあった仲買業者や飲食店等へ販売をせざる得ない状況である。

○ 地域の水産業振興の取組み

- ① 広島県三原市・尾道市・福山市と岡山県笠岡市の行政と各漁協、道の駅等で構成する備後の地魚応援団は、地魚 25 種を備後フィッシュと定め、地産地消及び消費・販路拡大の取組みを行っており、平成 29 年度からは、地域の飲食店に対して応援団への加入を促進し、備後フィッシュを含む地魚の消費・販路拡大につなげる計画である。
- ② 三原市においては平成 27 年 5 月に策定した「三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で「三原食」のブランド化推進事業を進めており、食の重点 3 大品目の 1 つに「三原タコ」を認定し、平成 31 年度までに 50 店舗の取扱店を追加する計画であり、「三原やっさタコ」を含む備後フィッシュ等の地魚の消費・販路拡大が見込める。
- ③ 三原市漁協では、製造した「三原やっさタコ」の冷凍加工品の保管を三原市内及び隣接する尾道市の民間冷凍倉庫を借り行っているが、使用料及び運搬経費がかかるとともに土・日・休日は冷凍倉庫が閉鎖しており、急な注文への対応が出来ない状況にある。そのため三原市漁協は、経済産業省と三原市の補助を受け、平成 29 年 3 月から 7 月の計画でプレハブ式冷凍庫の整備を行う。
- ④ 広島県は 2020 広島県農林水産業チャレンジプラン(アクションプログラム)に基づき、所得への寄与効果が高い魚種(タイ、タチウオ、キジハタ、ガザミ、オニオコゼ、カサゴ)を地域の核となる魚種に選定し、重点放流(キジハタ、ガザミ、オニオコゼ、カサゴ)及びブランド化を推進する。また、放流と一体となった増殖場の整備を行っている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

水産業を取り巻く厳しい状況の中、次のことを総合的に展開することで、漁業者をはじめ市民、関連団体等が協働して、豊かな里海を再生・保全し、意欲を持って就業できる水産業を実現すると共に、活力ある漁村を創造し、将来にわたり持続的に発展する三原市の水産業を目指す。

1 漁業経営の安定化

① 漁協の買上・加工・販売の強化

漁協の直営加工施設での加工用原料として漁業者から市場等より高価でタコを買取り、これを「三原やっさタコ(登録商標)」のブランドで加工・販売する等、漁協の買上・加工・販売力を強化し、もって漁業者の所得向上を図る。

② 旭町漁村への荷揚げ施設の整備

荷揚げ施設を整備し、漁協への荷揚げを容易にすることで産地仲買業者等よりも買取価格が高い漁協への出荷を促し、漁業者の所得向上を図る。

※ 三原市漁協のある旭町漁村は漁港がなく、護岸に設置された梯子で係留した漁船から荷揚げせざるを得ない。荷揚げ作業の負担が大きく、高齢化した漁業者にとっては危険であるため、買取価格が漁協より安くても荷揚げが容易な仲買業者・飲食店へ販売をする漁業者が多いのが現状である。なお、三原市漁協では、プレハブ式冷凍庫を整備中であり、完成後は漁獲物の流通等コストが削減されるため、漁業者からの買取価格もより増額が見込める。

③ 新規就業者確保への取組み

- ・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。
- ・ 三原市の新規就業者独立(自営)支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。

④ 漁業コスト削減のための取組み

- ・ 漁業者は、生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入により、漁業競争力の強化を図る。
- ・ 漁業者は、定期的な船底清掃、係留中の機関の停止、減速走行の徹底等を実施し、燃油消費量を抑制する。
- ・ 漁協は、燃油の急騰による漁業コストの増加に備えるため、漁業経営セーフティネット構築事業への漁業者の加入を関係団体と推進する。
- ・ 漁船保険等への加入促進

2 水産資源の増大

- ① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化
- ② 漁獲制限等の総合的な資源管理の実施
- ③ 新たな漁場及び増殖場の創設

3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み

- ① 平成 29 年度から「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」を新商品として販売
- ② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品の開発
- ③ 「三原やっさタコ」、「備後フィッシュ」、「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」、「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し、既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充

④ 三原市漁協における 6 次産業化の強化

活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所を整備し、漁協が直接販売することで、漁業者の所得向上を図る。

4 豊かな里海・浜の魅力発信

- ① 水産教室の実施
- ② 食育及び魚食の推進
- ③ 各種イベントへの参加
- ④ 水産資源を活用した体験型漁業等メニューの創設  
都市部と漁村の交流のための体験型タコ壺漁施設(漁船・漁具)と干しダコ作り体験施設(作業場、調理室、製造用設備等)の整備と観光コンテンツの作成及び実施することで、浜の魅力発信と漁業者の所得向上を図る。

5 漁港・海岸施設の維持管理

- ・ 能地漁港施設の機能保全に係る計画を策定して取り組む。
- ・ 漁港海岸保全施設の長寿命化に係る計画を策定して取り組む。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその他効果に関する担保措置

1 休業について

- ① 週に 1 日以上休漁する。(月平均)
- ② タコ壺漁：①に加え、次の休業を行う。
  - ・ 9 月末～10 月末の間で 1 ヶ月程度休漁
  - ・ 2 月末～3 月末の間で 1 ヶ月程度休漁

2 再放流について

- ① ガザミ：抱卵，軟甲もしくは甲長 15 cm未満<sup>※1</sup>
- ② カサゴ：抱卵，全長 15 cm未満<sup>※1</sup>
- ③ マダコ：200g 以下<sup>※2</sup>
- ④ サワラ：広域資源管理の取組みに基づく網目規制<sup>※3</sup>

※1 尾三地区水産振興協議会資源管理計画

※2 三原市漁業協同組合基準

※3 瀬戸内海広域漁業調整委員会指示第 27 号

(3) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

（具体的な取組内容については、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じて見直すこととする。）

1 年目（平成 29 年度）漁業所得を基準年対比 8.93%向上させる。

漁業収入向上 のための取組	<p>1 漁業経営の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 漁協の買上・加工・販売の強化 漁業者から市場等より高価でタコの買取りをすることで、漁協への出荷量を増やし、「三原やっさタコ」の販売強化を行う。</li> <li>② 旭町漁村の荷揚げ施設の整備 整備の検討を行う。</li> <li>③ 新規就業者確保への取組み                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。</li> <li>・ 三原市の新規就業者独立(自営)支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。</li> </ul> </li> </ul> <p>2 水産資源の増大 市又は漁協が実施する事業に協力することで水産資源の増大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化 キジハタ，マダイ，ヒラメ等の漁業所得への寄与効果の高い種苗を選定し，稚魚放流を行う。（市から経費の一部補助を受け，漁協が実施）</li> <li>② 資源管理 漁業者への漁獲制限等の周知・徹底を行う。</li> <li>③ 新たな漁場及び増殖場の創設                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タコ産卵礁（3,000 個程度）の沈設（市から経費の一部補助を受け，漁協が実施）</li> <li>・ 藻場礁（50 基程度）の沈設（市が実施）</li> <li>・ 魚礁（タコ壺型魚礁 9 基程度）の沈設（市が実施）</li> </ul> </li> </ul> <p>3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」を新商品販売                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生食用冷凍三原やっさタコ 注文販売を開始する。なお，一定量の販売が見込めるまで，廃棄リスクを回避するため注文生産とし，並行して販売イベント等を通じて従来の「冷凍タコは生食に向かない」とのイメージを払拭していく。</li> <li>・ 冷凍アナゴ 販売を開始する。</li> </ul> </li> </ul>
------------------	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品の検討を行う。</p> <p>③ 「三原やっさタコ」, 「備後フィッシュ」, 「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」, 「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し, 既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充の取り組みを行う。</p> <p>④ 三原市漁協における6次産業化の強化 活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所整備の検討を行う。</p> <p>4 豊かな里海・浜の魅力発信</p> <p>① 水産教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三原小5年生75名程度にたこ壺漁の事前学習, 体験学習を行う。</li> <li>・ 幸崎小5・6年生40名程度に栽培漁業学習とマダイ稚魚放流を行う。</li> <li>・ 市内小学生(3～6年生)40名に栽培漁業学習と稚魚放流を行う。</li> </ul> <p>② 食育及び魚食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレハブ式冷凍庫を活用し, 学校給食で使用する「三原やっさタコ」の使用量の増加に対応できる保管量を確保する。</li> <li>・ 魚食離れの抑制のための魚のさばき方教室開催の検討を行う。</li> </ul> <p>③ 各種イベントへの参加 市内外イベントでの「三原やっさタコ」加工品の販売を通して広く「三原やっさタコ」をアピールする。</p> <p>5 漁港・海岸施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能地漁港施設機能保全計画策定を行う。</li> <li>・ 漁港海岸保全施設長寿命化計画策定準備を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業による燃油高騰対策 三原市漁協は, 燃油急騰による漁業コストの増加に備えるため, 漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を関係団体と推進する。</p> <p>② 低コスト操業の推進による漁業コスト削減 全漁業者に定期的な船底掃除(船底の付着物除去と塗装), 係留中の機関停止, 不要不急の積載物の削減による船体の軽量化, 減速運航の徹底等を実施して燃油消費量の抑制をする。</p> <p>③ 漁船保険等への加入費補助(国・市が経費の一部を補助) 漁業者へ補助を活用し, 漁船損害保険料, 漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への加入促進を行うことで, 破損・事故時の負担抑制を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業収入安定対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティーネット構築事業</li> <li>・ 新規漁業就業者総合支援事業</li> <li>・ 水産物供給基盤機能保全事業</li> </ul>

2年目（平成30年度）漁業所得を基準年対比9.26%向上させる。

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁協の買上・加工・販売の強化 漁業者から市場等より高価でタコの買取りをすることで、漁協への出荷量を増やし、「三原やっさタコ」の販売強化を行う。</p> <p>② 旭町漁村の荷揚げ施設の整備 整備の検討を行う。</p> <p>③ 新規就業者確保への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。</li> <li>・ 三原市の新規就業者独立(自営)支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。</li> </ul> <p>2 水産資源の増大 市又は漁協が実施する事業に協力することで水産資源の増大を図る。</p> <p>① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化 キジハタ、マダイ、ヒラメ等の漁業所得への寄与効果の高い種苗を選定し、稚魚放流を行う。(市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</p> <p>② 資源管理 漁業者への漁獲制限等の周知・徹底を行う。</p> <p>③ 新たな漁場及び増殖場の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ タコ産卵礁 (3,000個程度)の沈設 (市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</li> <li>・ 藻場礁 (50基程度)の沈設 (市が実施)</li> </ul> <p>3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み</p> <p>① 「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」を販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生食用冷凍三原やっさタコ 販売を軌道に乗せ、注文販売から定量販売化を図る。</li> <li>・ 冷凍アナゴ 販売量の増大を図る。</li> </ul> <p>② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品の開発と販売を行う。</p> <p>③ 「三原やっさタコ」、「備後フィッシュ」、「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」、「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し、既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充を図る。</p> <p>④ 三原市漁協における6次産業化の強化 活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所整備の検討を行う。</p> <p>4 豊かな里海・浜の魅力発信</p> <p>① 水産教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三原小5年生75名程度にたこ壺漁の事前学習、体験学習を行う。</li> <li>・ 幸崎小5・6年生40名程度に栽培漁業学習とマダイ稚魚放流を行う。</li> <li>・ 市内小学生(3～6年生)40名に栽培漁業及びタコ壺漁の学習・稚魚放流等を行う。</li> </ul>
---------------------	--

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>② 食育及び魚食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレハブ式冷凍庫を活用し、学校給食で使用する「三原やっさタコ」の使用量の増加に対応できる保管量を確保する。</li> <li>・ 魚食離れの抑制のため、地魚のさばき方に加え、漁業者が勧める調理法を伝える。</li> </ul> <p>③ 各種イベントへの参加</p> <p>市内外イベントでの「三原やっさタコ」加工品の販売を通して広く「三原やっさタコ」をアピールする。</p> <p>④ 水産資源を活用した体験型漁業等プランの創設</p> <p>都市部と漁村の交流のための体験型タコ壺漁と干しダコ作り教室のプランの検討を行う。</p> <p>5 漁港・海岸施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能地漁港施設機能保全計画に基づき維持管理を行う。</li> <li>・ 漁港海岸保全施設長寿命化計画策定を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業による燃油高騰対策</p> <p>三原市漁協は、燃油急騰による漁業コストの増加に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を関係団体と推進する。</p> <p>② 低コスト操業の推進による漁業コスト削減</p> <p>全漁業者に定期的な船底掃除（船底の付着物除去と塗装）、係留中の機関停止、不要不急の積載物の削減による船体の軽量化、減速運航の徹底等を実施して燃油消費量の抑制をする。</p> <p>③ 漁船保険等への加入費補助（国・市が経費の一部を補助）</p> <p>漁業者へ補助を活用し、漁船損害保険料、漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への加入促進を行うことで、破損・事故時の負担抑制を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業収入安定対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティーネット構築事業</li> <li>・ 新規漁業就業者総合支援事業</li> <li>・ 農山漁村地域整備交付金</li> </ul>



3年目（平成31年度）漁業所得を基準年対比9.58%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁協の買上・加工・販売の強化 漁業者から市場等より高価でタコの買取りをすることで、漁協への出荷量を増やし、「三原やっさタコ」の販売強化を行う。</p> <p>② 旭町漁村の荷揚げ施設の整備 整備を行う。</p> <p>③ 新規就業者確保への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。</li><li>・ 三原市の新規就業者独立(自営)支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。</li></ul> <p>2 水産資源の増大 市又は漁協が実施する事業に協力することで水産資源の増大を図る。</p> <p>① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化 キジハタ、マダイ、ヒラメ等の漁業所得への寄与効果の高い種苗を選定し、稚魚放流を行う。(市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</p> <p>② 資源管理 漁業者への漁獲制限等の周知・徹底を行う。</p> <p>③ 新たな漁場及び増殖場の創設</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ タコ産卵礁(3,000個程度)の沈設(市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</li><li>・ 藻場礁(50基程度)の沈設(市が実施)</li><li>・ 魚礁(タコ壺型魚礁9基程度)の沈設(市が実施)</li><li>・ 増殖場の整備(県が実施、市が事業費の一部を負担)</li></ul> <p>3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み</p> <p>① 「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」の販売量の増大を図る。</p> <p>② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品販売量の増大を図る。</p> <p>③ 「三原やっさタコ」、「備後フィッシュ」、「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」、「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し、既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充を図る。</p> <p>④ 三原市漁協における6次産業化の強化 活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所の整備事業計画、測量調査・基本設計を行う。</p> <p>4 豊かな里海・浜の魅力発信</p> <p>① 水産教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 三原小5年生75名程度へたこ壺漁の事前学習、体験学習を行う。</li><li>・ 幸崎小5・6年生40名程度に、栽培漁業学習とマダイ稚魚の体験放流を行う。</li><li>・ 市内小学生(3～6年生)40名に栽培漁業及びタコ壺漁の学習・稚魚放流等を行う。</li></ul>
--------------	--

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>② 食育及び魚食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレハブ式冷凍庫を活用し、学校給食で使用する「三原やっさタコ」の使用量の増加に対応できる保管量を確保する。</li> <li>・ 魚食離れの抑制のため、地魚のさばき方に加え、漁業者が勧める調理法を伝える。</li> </ul> <p>③ 各種イベントへの参加</p> <p>市内外イベントでの「三原やっさタコ」加工品の販売を通して広く「三原やっさタコ」をアピールする。</p> <p>④ 水産資源を活用した体験型漁業等プランの創設</p> <p>都市部と漁村の交流のための体験型タコ壺漁と干シダコ作り教室のプランの検討</p> <p>5 漁港・海岸施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能地漁港施設機能保全計画に基づき維持管理を行う。</li> <li>・ 漁港海岸保全施設長寿命化計画に基づき維持管理を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業による燃油高騰対策</p> <p>三原市漁協は、燃油急騰による漁業コストの増加に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を関係団体と推進する。</p> <p>② 低コスト操業の推進による漁業コスト削減</p> <p>全漁業者に定期的な船底掃除（船底の付着物除去と塗装）、係留中の機関停止、不要不急の積載物の削減による船体の軽量化、減速運航の徹底等を実施して燃油消費量の抑制をする。</p> <p>③ 漁船保険等への加入費補助（国・市が経費の一部を補助）</p> <p>漁業者へ補助を活用し、漁船損害保険料、漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への加入促進を行うことで、破損・事故時の負担抑制を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業収入安定対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティーネット構築事業</li> <li>・ 新規漁業就業者総合支援事業</li> <li>・ 浜の活力再生交付金(水産業強化支援事業)</li> </ul>

4年目（平成32年度）漁業所得を基準年対比9.91%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<p>1 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁協の買上・加工・販売の強化 整備した荷揚げ施設の活用と漁業者から、市場等より高価でタコの買取りをすることで、漁協への出荷量を増やし、「三原やっさタコ」の販売強化を行う。</p> <p>② 新規就業者確保への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。</li><li>・ 三原市の新規就業者独立（自営）支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。</li></ul> <p>2 水産資源の増大 市又は漁協が実施する事業に協力することで水産資源の増大を図る。</p> <p>① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化 キジハタ、マダイ、ヒラメ等の漁業所得への寄与効果の高い種苗を選定し、稚魚放流を行う。（市から経費の一部補助を受け、漁協が実施）</p> <p>② 資源管理 漁業者への漁獲制限等の周知・徹底を行う。</p> <p>③ 新たな漁場及び増殖場の創設</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ タコ産卵礁（3,000個程度）の沈設（市から経費の一部補助を受け、漁協が実施）</li><li>・ 藻場礁（50基程度）の沈設（市が実施）</li></ul> <p>3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み</p> <p>① 「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」の販売量の増大を図る。</p> <p>② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品販売量の増大を図る。</p> <p>③ 「三原やっさタコ」、「備後フィッシュ」、「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」、「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し、既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充を図る。</p> <p>④ 三原市漁協における6次産業化の強化 活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所の整備について、詳細設計及び施工を行う。</p> <p>4 豊かな里海・浜の魅力発信</p> <p>① 水産教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 三原小5年生75名程度にたこ壺漁の事前学習、体験学習を行う。</li><li>・ 幸崎小5・6年生40名程度に栽培漁業学習とマダイ稚魚放流を行う。</li><li>・ 市内小学生（3～6年生）40名に栽培漁業及びタコ壺漁の学習・稚魚放流等を行う。</li></ul> <p>② 食育及び魚食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ プレハブ式冷凍庫を活用し、学校給食で使用する「三原やっさタコ」の使用量の増加に対応できる保管量を確保する。</li></ul>
--------------	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魚食離れの抑制のため、地魚のさばき方に加え、漁業者が勧める調理法を伝える。</li> <li>③ 各種イベントへの参加 市内外イベントでの「三原やっさタコ」加工品の販売を通して広く「三原やっさタコ」をアピールする。</li> <li>④ 水産資源を活用した体験型漁業等プランの創設 都市部と漁村の交流のための体験型タコ壺漁施設(漁船・漁具)と、干しダコ作り体験施設(作業場, 調理室, 製造用設備等)の整備及び, 体制構築と観光コンテンツの磨き上げを行う。</li> </ul> <p>5 漁港・海岸施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能地漁港施設機能保全計画に基づき維持管理を行う。</li> <li>・ 漁港海岸保全施設長寿命化計画に基づき維持管理を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>1 漁業経営の安定化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 漁業経営セーフティーネット構築事業による燃油高騰対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三原市漁協は、燃油急騰による漁業コストの増加に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を関係団体と推進する。</li> </ul> </li> <li>② 低コスト操業の推進による漁業コスト削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全漁業者に定期的な船底掃除(船底の付着物除去と塗装), 係留中の機関停止, 不要不急の積載物の削減による船体の軽量化, 減速運航の徹底等を実施して燃油消費量の抑制をする。</li> </ul> </li> <li>③ 漁船保険等への加入費補助(国・市が経費の一部を補助) 漁業者へ補助を活用し, 漁船損害保険料, 漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への加入促進を行うことで, 破損・事故時の負担抑制を図る。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業収入安定対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティーネット構築事業</li> <li>・ 新規漁業就業者総合支援事業</li> <li>・ 浜の活力再生交付金(水産業強化支援事業)</li> <li>・ 農山漁村振興交付金(渚泊推進対策・渚泊推進関連対策事業)</li> </ul>

5年目（平成33年度）

（最終年度であり、今までの成果を検証するとともに、取組内容を見直しつつ、引き続き以下の取組を確実に実施する。）漁業所得を基準年対比10.23%向上させる。

漁業収入向上のための取組	<ol style="list-style-type: none"><li>1 漁業経営の安定化<ol style="list-style-type: none"><li>① 漁協の買上・加工・販売の強化 整備した荷揚げ施設の活用と漁業者から市場等より高価でタコの買取りをすることで、漁協への出荷量を増やし、「三原やっさタコ」の販売強化を行う。</li><li>② 新規就業者確保への取組み<ul style="list-style-type: none"><li>・ 広島県新規漁業就業者支援協議会の新規漁業就業者確保事業を活用し、新規就業希望者の研修を行う。</li><li>・ 三原市の新規就業者独立(自営)支援制度を活用し、新規就業者の確保を図る。</li></ul></li></ol></li><li>2 水産資源の増大 市又は漁協が実施する事業に協力することで水産資源の増大を図る。<ol style="list-style-type: none"><li>① 漁場環境に適し、漁業所得への寄与効果の高い種苗放流の充実・強化 キジハタ、マダイ、ヒラメ等の漁業所得への寄与効果の高い種苗を選定し、稚魚放流を行う。(市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</li><li>② 資源管理 漁業者への漁獲制限等の周知・徹底を行う。</li><li>③ 新たな漁場及び増殖場の創設<ul style="list-style-type: none"><li>・ タコ産卵礁(3,000個程度)の沈設(市から経費の一部補助を受け、漁協が実施)</li><li>・ 藻場礁(50基程度)の沈設(市が実施)</li><li>・ 魚礁(タコ壺型魚礁9基程度)の沈設(市が実施)</li></ul></li></ol></li><li>3 消費・販路の拡大と魚価向上への取組み<ol style="list-style-type: none"><li>① 「生食用冷凍三原やっさタコ」及び「冷凍アナゴ」の販売量の増大を図る。</li><li>② 既存の水産加工施設を活用した新たな商品販売量の増大を図る。</li><li>③ 「三原やっさタコ」、「備後フィッシュ」、「広島県のブランド化魚種」等のブランド及び「備後の地魚応援団」、「三原食ブランド化推進事業」等の事業を活用し、既存取扱店舗での販売強化と新規取扱店舗の拡充を図る。</li><li>④ 三原市漁協における6次産業化の強化 活魚の販売のための蓄養施設及び水産物直売所の施工を行う。</li></ol></li><li>4 豊かな里海・浜の魅力発信<ol style="list-style-type: none"><li>① 水産教室の実施<ul style="list-style-type: none"><li>・ 三原小5年生75名程度にたこ壺漁の事前学習、体験学習を行う。</li><li>・ 幸崎小5・6年生40名程度に栽培漁業学習とマダイ稚魚放流を行う。</li><li>・ 市内小学生(3~6年生)40名に栽培漁業及びタコ壺漁の学習・稚魚放流等を行う。</li></ul></li></ol></li></ol>
--------------	---

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>② 食育及び魚食の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレハブ式冷凍庫を活用し、学校給食で使用する「三原やっさタコ」の使用量の増加に対応できる保管量を確保する。</li> <li>・ 魚食離れの抑制のため、地魚のさばき方に加え、漁業者が勧める調理法を伝える。</li> </ul> <p>③ 各種イベントへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内外イベントでの「三原やっさタコ」加工品の販売を通して広く「三原やっさタコ」をアピールする。</li> </ul> <p>④ 水産資源を活用した体験型漁業等プランの創設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市部と漁村の交流のための体験型タコ壺漁施設(漁船・漁具)と干しダコ作り体験施設(作業場、調理室、製造用設備等)の整備及び体制構築と観光コンテンツの磨き上げを行う。</li> </ul> <p>5 漁港・海岸施設の維持管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 能地漁港施設機能保全計画に基づき維持管理を行う。</li> <li>・ 漁港海岸保全施設長寿命化計画に基づき維持管理を行う。</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>2 漁業経営の安定化</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業による燃油高騰対策</p> <p>三原市漁協は、燃油急騰による漁業コストの増加に備えるため、漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を関係団体と推進する。</p> <p>② 低コスト操業の推進による漁業コスト削減</p> <p>全漁業者に定期的な船底掃除(船底の付着物除去と塗装)、係留中の機関停止、不要不急の積載物の削減による船体の軽量化、減速運航の徹底等を実施して燃油消費量の抑制をする。</p> <p>③ 漁船保険等への加入費補助(国・市が経費の一部を補助)</p> <p>漁業者へ補助を活用し、漁船損害保険料、漁船船主責任保険料及び漁船乗組船主保険料への加入促進を行うことで、破損・事故時の負担抑制を図る。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業収入安定対策事業</li> <li>・ 漁業経営セーフティーネット構築事業</li> <li>・ 新規漁業就業者総合支援事業</li> <li>・ 浜の活力再生交付金(水産業強化支援事業)</li> <li>・ 農山漁村振興交付金(渚泊推進対策・渚泊推進関連対策事業)</li> </ul>

(4) 関連機関との連携

国等の事業を活用すると共に、取り組みの効果が十分に発揮されるよう、行政(広島県、三原市)、その他の関係団体と強固に連携する。

#### 4 目標

##### (1) 数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成 年：漁業所得	円
	目標年	平成 年：漁業所得	円

##### (2) 上記の算出方法及びその妥当性

#### 5 関連施策

活用を予定している関連施策名と想定される内容

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関連性
浜の活力再生交付金(水産業強化支援事業)	旭町漁村の荷揚げ施設整備、蓄養施設と水産物直売所の整備
農山漁村振興交付金(渚泊推進対策・渚泊推進関連対策事業)	体験型タコ壺漁施設(漁船・漁具)と干しダコ作り体験施設(作業場、調理室、製造用設備等)の整備及び体制構築と観光コンテンツの磨き上げ
水産物供給基盤機能保全事業	能地漁港施設機能保全計画策定
農山漁村地域整備交付金	漁港海岸保全施設長寿命化計画策定
新規漁業就業者総合支援事業	新規漁業就業者の研修受け入れ
漁業収入安定対策事業 漁業経営セーフティネット構築事業	操業コストの削減